

ソーシャル・データサイエンス研究科博士前期課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科博士前期課程は、豊かな教養と市民的公共性を備えた、構想力ある専門人、理性ある革新者、指導力ある政治経済人を育成するとの理念に基づいて、社会科学とデータサイエンスが融合するソーシャル・データサイエンスの学問分野において、最先端の知識を自ら活用し、新たな課題を発見し解決に導くことができるソーシャル・データサイエンスのスペシャリストの養成を目指します。

本研究科博士前期課程の修了生には、社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用いてビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決を実行できることと、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した学術領域に貢献できることが求められます。

よって本研究科博士前期課程では、以下1．に掲げる能力及び資質等を修得していることを、2．に示す方法で確認し、修了の認定を行い、修士（ソーシャル・データサイエンス）の学位を授与します。

1. 修得する能力・資質等

- (1) 社会科学の高度な知識
- (2) データサイエンスの高度な知識
- (3) (1)(2)を融合させ、ビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決を実行できる能力
- (4) (1)(2)が有機的に融合した学術領域に貢献できる研究能力

2. 能力・資質等の修得・判定方法

- (1) 本研究科が考える「社会科学の高度な知識」とは、ソーシャル・データサイエンスという融合的な学術領域において、全学生が共通して修得する必要がある社会科学の基礎的な知識を踏まえて、個別のテーマに関連する社会科学の最先端の知識を学ぶことを通じて修得されるものです。よって、本研究科が指定するソーシャル・データサイエンス概論に関する授業科目から修得した基礎的知識を踏まえて、各々の興味・関心に基づき履修したソーシャル・データサイエンスに関する発展科目から発展的知識を修得していることをもって、同能力・資質等を修得していると判定します。
- (2) 本研究科が考える「データサイエンスの高度な知識」とは、ソーシャル・データサイエンスという融合的な学術領域において、全学生が共通して修得する必要があるデータサイエンスの基礎的な知識を踏まえて、個別のテーマに関連するデータサイエンスの最先端の知識を学ぶことを通じて修得されるものです。よって、本研究科が指定するソーシャル・データサイエンス概論に関する授業科目及びデータサイエンスの基礎に関する授業科目から修得した基礎的知識を踏まえて、各々の興味・関心に基づき履修したソーシャル・データサイエンスに関する発展科目から発展的知識を修得していることをもって、

同能力・資質等を修得していると判定します。

- (3) 本研究科が考える「社会科学の高度な知識とデータサイエンスの高度な知識を融合させ、ビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決を実行できる能力」とは、それぞれの高度な知識を、ビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決のため共に用いる経験を通じて修得するものです。よって、本研究科が指定するソーシャル・データサイエンスに関する基礎科目及び演習科目並びに、各々の興味・関心に基づくソーシャル・データサイエンスに関する発展科目の履修を通じてそれぞれの高度な知識をビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決のため共に用いる経験を積むことで、同能力・資質等を修得していると判定します。
- (4) 本研究科が考える「社会科学の高度な知識とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した学術領域に貢献できる研究能力」とは、それぞれの高度な知識を、学術的な課題のため共に用いる経験を通じて修得するものです。よって、本研究科が指定する演習科目の履修を通じて学術的な課題に取り組み、修士論文の審査と最終試験に合格していることをもって、同能力・資質等を修得していると判定します。
- (5) (1)～(4)で修得が確認された能力・資質等は、あくまで最低限のものです。本研究科の修了生には、現代社会における様々な状況において、社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用いてビジネスの理解・分析・革新や社会課題の理解・分析・解決を実行できることと、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した学術領域に貢献できることが求められます。よって、各々の興味・関心に基づき幅広く授業科目を履修し、その他本研究科が定める要件を満たしたことをもって、本研究科の修了を認定し、修士（ソーシャル・データサイエンス）の学位を授与します。

ソーシャル・データサイエンス研究科博士後期課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科は、豊かな教養と市民的公共性を備えた、構想力ある専門人、理性ある革新者、指導力ある政治経済人を育成するとの理念に基づいて、社会科学とデータサイエンスが融合するソーシャル・データサイエンスの学問分野において、自らが創出した最先端の知識を活用し、ビジネス・イノベーションや社会課題解決を実現できるソーシャル・データサイエンスの研究開発人材の養成を目指します。

本研究科博士後期課程の修了生には、社会科学とデータサイエンスの融合によって生じたソーシャル・データサイエンスの研究フロンティアを開拓し、ソーシャル・データサイエンスの最先端の研究成果を社会実装できることが求められます。

よって本研究科では、以下1. に掲げる能力及び資質等を修得していることを、2. に示す水準で修得していることを確認し、卒業の認定を行い、博士（ソーシャル・データサイエンス）の学位を授与します。

1. 修得する能力・資質等

（1）ソーシャル・データサイエンスの研究フロンティアを開拓する研究遂行力

- ①ソーシャル・データサイエンスの最先端の知識を用いて適切な課題設定ができる力
- ②ソーシャル・データサイエンスの最先端の知識を用いて適切な課題解決ができる力
- ③ソーシャル・データサイエンスの最先端の知識を自ら創出することができる力

（2）ソーシャル・データサイエンスの最先端の研究成果を社会実装できる実行力

- ①ソーシャル・データサイエンスの最先端の知識を用いてビジネス・イノベーションや社会課題解決を実現することができる力

2. 求められる能力・資質等の水準

（1）「ソーシャル・データサイエンスの研究フロンティアを開拓する研究遂行力」については、

個々の専門分野に関連の深い研究分野におけるピアレビューを通じて独力で研究を遂行する能力を認められるとともに、社会科学とデータサイエンスを融合させたソーシャル・データサイエンスの研究を遂行し最先端の知識を自ら創出する能力を本研究科内外の幅広い専門性を持つ研究者から認められる水準であることを求めます。

（2）「ソーシャル・データサイエンスの最先端の知識を用いてビジネス・イノベーションや社会課題解決を実現することができる力」については、

個々の専門分野に関連の深い民間企業・公的セクターとの共同プロジェクトを通じて、最先端の知識を用いたビジネス・イノベーションや社会課題解決を実現する能力を民間企業・公的セクターの実務家から認められる水準であることを求めます。